

イミグランキット皮下注3mg

【この薬は？】

販売名	イミグランキット皮下注3mg IMIGRAN Kit Subcutaneous Injection 3mg
一般名	スマトリプタンコハク酸塩 Sumatriptan Succinate
含有量 (カートリッジ1本中)	スマトリプタンコハク酸塩4.2mg (スマトリプタンとして3.0mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、5-HT_{1B/1D}受容体作動型片頭痛治療剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、セロトニン（5-HT）と呼ばれる物質のうちの5-HT_{1B}と5-HT_{1D}受容体に選択的に作用し、頭痛発作時の拡張しすぎた頭部の血管を収縮させること、および神経末端からの炎症を起こす物質の放出を抑えることにより、片頭痛を改善します。
- ・次の目的で、自己注射のため処方されます。

片頭痛、群発頭痛

- ・家族性片麻痺性片頭痛、弧発性片麻痺性片頭痛、脳底型片頭痛あるいは眼筋麻痺性片頭痛の方は、この薬を使用することができません。
- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者の方は、自己注射できます。量を加減せず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にイミグランキット皮下注に含まれる成分で過敏症のあった人
- ・過去に心筋梗塞になったことがある人、虚血性心疾患であるかまたはその症状や兆候がある人、異型狭心症（冠動脈攣縮）がある人
- ・脳血管障害や一過性脳虚血性発作になったことがある人
- ・末梢血管障害がある人
- ・血圧管理が不十分な高血圧の人
- ・肝臓に重篤な障害がある人
- ・エルゴタミン、エルゴタミン誘導体含有製剤、あるいは5-HT_{1B/1D}受容体作動薬（イミグランと同じ作用の他の片頭痛治療薬）を使用している人
- ・モノアミンオキシダーゼ阻害剤（MAO阻害剤）を使用している人、あるいはモノアミンオキシダーゼ阻害剤の使用を中止して2週間以内の人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・虚血性心疾患の可能性のある人（例えば、虚血性心疾患を疑わせる重篤な不整脈がある人、閉経後の女性、40歳以上の男性、冠動脈疾患になりやすい人）
- ・過去にてんかん様発作があった人、あるいはてんかん様発作を来しやすい人（脳炎等の脳疾患がある人、痙攣（けいれん）の閾値を低下させる薬剤を使用している人等）
- ・過去にスルホンアミド系薬剤で過敏症のあった人
- ・血圧管理が十分行われている高血圧の人
- ・脳血管障害の可能性のある人
- ・腎臓に障害がある人
- ・肝臓に障害がある人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬 [エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン（クリアミン）、ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩、エルゴメトリンマレイン酸塩（エルゴメトリンF）、メチルエルゴメトリンマレイン酸塩（パルタンM）、ゾルミトリプタン（ゾーミック）、エレクトリプタン臭化水素酸塩（レルパックス）、リザトリプタン安息香酸塩（マクサルト）、ナラトリプタン塩酸塩（アマージ）、モノアミンオキシダーゼ阻害剤] や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○この薬の注射針のカバーに天然ゴム（ラテックス）が含まれています。ラテックスアレルギーのある人は、このお薬を使用する前に、その旨を医師または薬剤師に伝えてください。アレルギー反応の症状があらわれた場合には、速やかに医師または薬剤師に連絡してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
通常、成人の使用する量および回数は、次のとおりです。

〔片頭痛の場合〕

一回量	カートリッジ1本
使用回数	頭痛発作発現時に1本を使用します。 1回の頭痛発作において、初回の注射で頭痛が軽減した場合には、24時間以内に起こった次の頭痛発作に対して注射することができますが、初回と2回目の注射の間は1時間以上の間隔をあけてください。 1日2本を超えて使用しないでください。

〔群発頭痛の場合〕

一回量	カートリッジ1本
使用回数	頭痛発作発現時に1本を使用します。 1日2回まで注射することができますが、初回と2回目の注射の間は1時間以上の間隔をあけてください。 1日2本を超えて使用しないでください。

〔この薬を使用する全ての方に共通〕

- ・この薬は頭痛発作発現時にのみ使用し、予防を目的として使用しないでください。
- ・この薬を使用しても全く効果が認められない場合には、他の原因による頭痛の可能性があるので、それ以上この薬を使用せず、医師に相談してください。
- ・スマトリプタン錠（イミグラン錠等）またはイミグラン点鼻液と組み合わせて使用する場合、
 - ・この薬を注射した後に、スマトリプタン錠またはイミグラン点鼻液を使用する場合は、1時間以上の間隔をあけてください。
 - ・スマトリプタン錠またはイミグラン点鼻液を使用後に、この薬を注射する場合は、2時間以上の間隔をあけてください。

●どのように使用するか？

- ・必ず使用説明書を受け取り、使用方法の説明を受けてください。
- ・この薬は、皮下に注射します。静脈内に注射しないでください。
- ・皮下注射の注射部位は、医師の指示に従ってください。
- ・必ず専用のペン型注入器をお使いください。
- ・カートリッジパック上部の封緘（ふうかん）シールが破損していたり、封緘シールが無いときは、そのカートリッジは使用しないでください。
- ・この薬は滅菌されていますので、カートリッジパックから取り出した後は、すみやかに使用してください。
- ・使用済みのカートリッジを誤って再使用しないよう注意してください。
- ・カートリッジパックに表示してある使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
- ・使用後の針は、そのままカートリッジパックに入れて子供の手の届かないところに保管してください。

- ・具体的な使用方法は、末尾に添付しています。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・異常を感じたら、使用を中止し、ただちに医師に連絡してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬を使用するにあたっては、使用方法や副作用等について患者さんは十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・この薬を注射後、何らかの異常を感じたら、ただちに医師に連絡してください。
- ・この薬を使用後、胸の痛みや胸の圧迫感などの一時的な症状があらわれることがあるので（強く咽喉頭（いんこうとう）の辺りまで症状が出る場合もあります）、これらの症状があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・心血管系の病気がない人でも、心臓に重篤な障害が極めてまれに起こることがあるので、異常を感じた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・頭痛発現時あるいはこの薬を投与した後に眠気があらわれることがありますので、この薬を使用している間は自動車の運転等危険を伴う機械の操作は行わないようにしてください。
- ・この薬を含むトリプタン系の薬により、頭痛が悪化することがあるので、この薬を使用しても良くなる場合には医師に相談してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・この薬を使用した後12時間は授乳しないことが望ましいため、授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

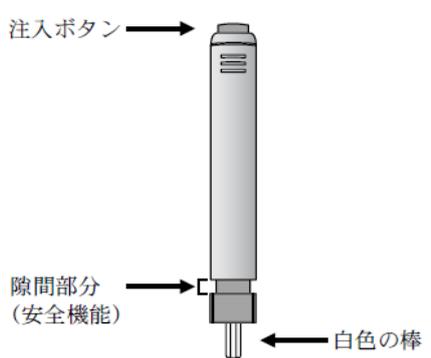
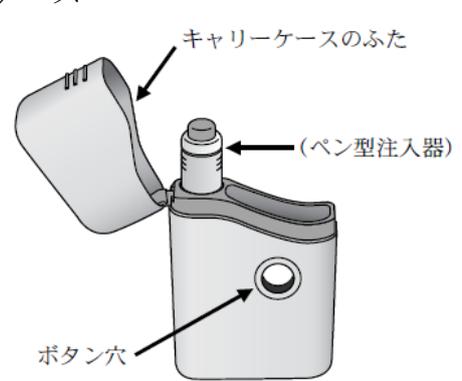
重大な副作用	主な自覚症状
アナフィラキシー ショック	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
虚血性心疾患様症 状 きょけつせいしんしつかんよ うしょうじょう	しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、冷汗が出る、息苦しい
てんかん様発作 てんかんようほっさ	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
薬剤の使用過多に よる頭痛 やくざいのしょうかたによる	頭痛

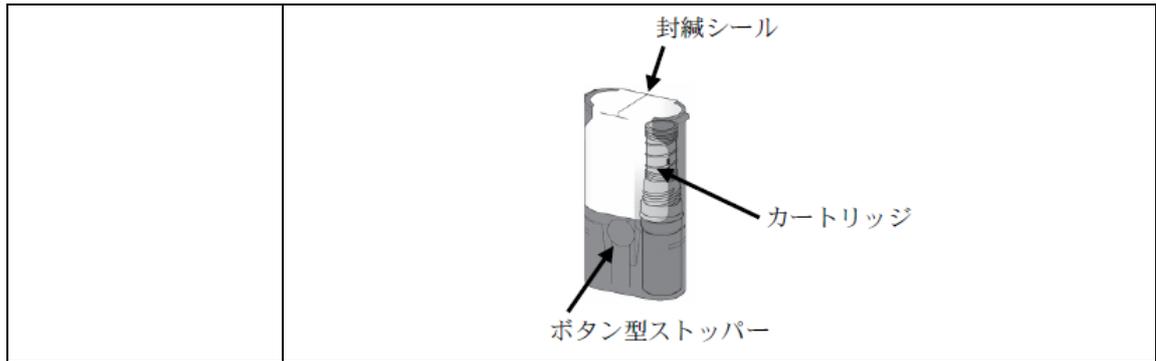
ずつう	
-----	--

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	ふらつき、冷汗が出る、顔や手足の筋肉がぴくつく
頭部	めまい、一時的にボーっとする、意識の低下、頭痛
顔面	顔面蒼白
口や喉	喉のかゆみ
胸部	動悸、息苦しい、しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ
手・足	手足が冷たくなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹

【この薬の形は？】

性状	無色～淡黄色澄明の液
内容量	カートリッジ1本（0.5 mL）
形状・構造	(1) イミグランキット皮下注3mg用注入器（ペン型注入器） 
	(2) キャリーケース 
	(3) カートリッジパック



【この薬に含まれているのは？】

有効成分	スマトリプタンコハク酸塩
添加剤	塩化ナトリウム

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●このくすりの廃棄方法は？

- ・この薬には注射針がついているため、誤って刺すことのないよう、また、感染防止に留意し、医療機関の指示どおりに安全な方法で廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：

グラクソ・スミスクライン株式会社 (<http://jp.gsk.com>)

カスタマー・ケア・センター

電話：0120-561-007

受付時間：9時～17時45分（土、日、祝日および当社休業日を除く）

1. 注射部位の確認

注射部位 (例)



■ 注射部位を消毒します。

(アルコール等の消毒薬・衛生材は、処方した保険医療機関から提供されます。)

★注意事項

- ・本剤は皮下注射です。
- ・注射する部位は、医師の指示に従ってください。

実際に自己注射する

2. カートリッジパックの開封



■ キャリーケースのふたを開けます。

■ カートリッジパックの使用する方の「封緘シール」をはがし*、ふたを中央から外側に開けます。

※：封緘シールの①からご使用ください。

★使用済みカートリッジ 誤使用防止のための注意事項

1. 一度に、①、②両方の「封緘シール」をはがさないでください。
2. 開封したカートリッジの「封緘シール」は完全にはがしてください。
3. 「封緘シール」が破損、もしくはないカートリッジは使用しないでください。

※実際のカートリッジパックのシールとは異なります。

実際に自己注射する

3. ペン型注入器の取り出し



■ **「注入ボタン」を押さないように注意※**しながら、キャリアケースからペン型注入器を取り出します。

■ ペン型注入器の下端から**「白色の棒」が出ていないことを必ず確認してください。**

※: 「注入ボタン」を押すと、「白色の棒」が出ることがあります。

※実際のカートリッジパックのシールとは異なります。

実際に自己注射する

3. ペン型注入器の取り出し



「白色の棒」が出ている場合※は、カートリッジを取りつけないでください。



※: 「白色の棒」が出ている場合
キャリアケースに戻し、「カチッ」という音がするまで押し込んだ後に取り出し、再度「白色の棒」が出ていないことを確認します。



※実際のカートリッジパックのシールとは異なります。

実際に自己注射する

4. カートリッジの装着



■ 開封したカートリッジパックにペン型注入器をまっすぐ挿入した後、時計回りに止まるまで回します (約半回転※)。

■ この操作で、カートリッジが取り付けられます。

※: ペン型注入器を必要以上に強く回転させないでください。ペン型注入器の「隙間部分」がスライドしなくなるおそれがあります。

※実際のカートリッジパックのシールとは異なります。

実際に自己注射する

4. カートリッジの装着



★ペン型注入器に関する注意事項



「注入ボタン」に指をかけたリ、押したりしないでください。

※実際のカートリッジパックのシールとは異なります。

実際に自己注射する

5. カートリッジの取り出し



- 「注入ボタン」を押さないように注意しながら、カートリッジを取りつけたペン型注入器を、少し力を入れてまっすぐに上に引き上げて取り出します。

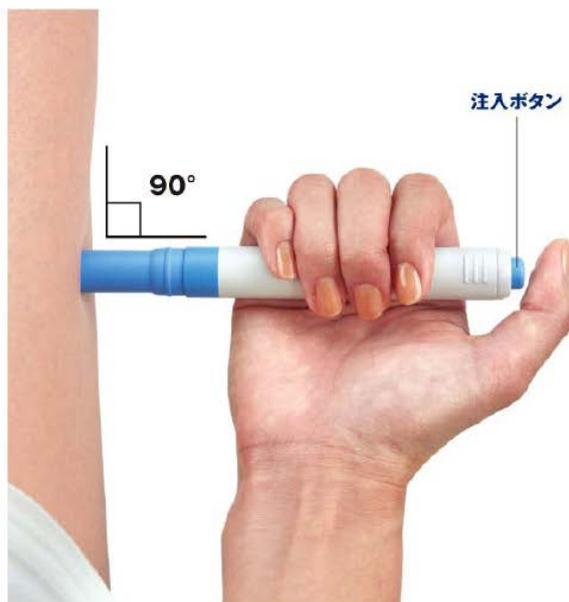
★カートリッジ使用に関する注意事項

1. カートリッジパックから一度取り出したカートリッジを、注射前にカートリッジパックやキャリーケースの中に戻さないでください。
(本剤は滅菌済みであるため、カートリッジパックから取り出した後は、速やかにご使用ください。)
2. 戻した場合は、注射針が破損したり、正しく投与できなくなるおそれがあるため、そのカートリッジは使用しないでください。
3. カートリッジには注射針が入っているので、先端を顔に向けないでください。

※実際のカートリッジパックのシールとは異なります。

実際に自己注射する

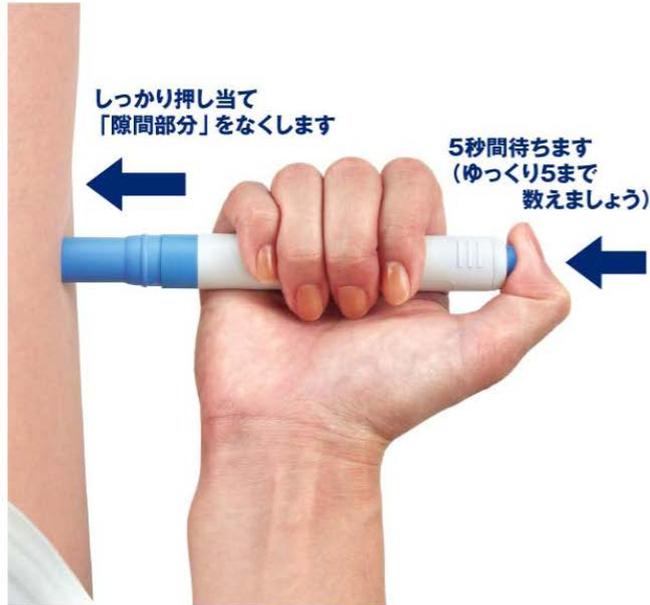
6. 注射準備



- 「注入ボタン」から指をはずした状態で、ペン型注入器をしっかり握ります。
- ペン型注入器の先端を、注射部位に垂直に強く押し当てます。

実際に自己注射する

7. 注射



■ ペン型注入器をしっかりと注射部位に押し当てます。

■ 「隙間部分」がない状態で、「**パチン**」という音がするまで「**注入ボタン**」を押し、そのまま5秒間待ちます。

★注射時における注意事項

1. 「注入ボタン」を押すと、「パチン」という音がして注射針が注射部位に刺入し、自動的に注射液が注入されます。
2. ペン型注入器は、すぐには注射部位から離さないでください(注射液の一部がもれるおそれがあるため)。ただし、もし注射液がもれても、2本目の注射はしないでください。

実際に自己注射する

8. 注射針を引き抜く



■ ペン型注入器を注射部位からゆっくり離し、注射針を抜きます。

★ペン型注入器の先端から、**注射針が出ていない場合**

- ・この場合、注射は完了していないため、6からやり直してください。
- ・注射後は、ペン型注入器の先端から注射針が出ているため注意してください。注射針には触らないでください。

実際に自己注射する

9. カートリッジの取り外し



■ ペン型注入器をただちにカートリッジバックに戻し、奥までしっかり押し込みます。

■ ペン型注入器から使用済みのカートリッジが外れるまで、反時計回りに回します。

ペン型注入器の先端から注射針が出ているため、注意してください。

※実際のカートリッジバックのシールとは異なります。

実際に自己注射する

10. 「白色の棒」のリセット



■ ペン型注入器を引き上げ、使用済みカートリッジのふたを、安全のためにしっかり閉めます。

■ ペン型注入器をキャリアケースに戻し、**“カチッ”**という音がするところまで、しっかり押し込みます。
この操作によって、「白色の棒」がリセットされ、ペン型注入器を次回使用するための準備ができます。

※実際のカートリッジバックのシールとは異なります。

実際に自己注射する

11. 片付け



- 次に本剤を使用するときまで、キャリアケースのふたは閉めておきます。

※カートリッジを2本とも
使い終わった場合

誤使用を避けるため、キャリアケースから使用済みカートリッジパックを速やかに取り出し、適切に廃棄してください。
（「使用済みカートリッジパックの廃棄方法について」をご参照ください。）

実際に自己注射する

1. 使用済みカートリッジパックの引き上げ



- キャリーケースのふたを開け、キャリアケースの両側面にある青いボタン型ストッパーを両方とも内側に押し込みながら、使用済みカートリッジパックを引き上げて取り出します。

※実際のカートリッジパックのシールとは異なります。

実際に自己注射する

2. 新しいカートリッジパックのセット



- 新しいカートリッジパックをキャリアケースにセットし、キャリアケースのふたを閉めます。

「封緘シール」が破損、もしくはないカートリッジは、使用しないでください。

※実際のカートリッジパックのシールとは異なります。

実際に自己注射する

使用済みカートリッジパックの廃棄方法について

使用済みカートリッジパックの廃棄方法は、患者さまの住居がある自治体のルールによって異なりますが

- ① 患者さまが自宅にて廃棄する（可燃物、または不燃物として）
- ② 医療機関で回収して廃棄する

の2通りのみとなります。

患者さまの住居の自治体ルールは、患者さまそれぞれで異なりますので、基本的には患者さまご自身で各自治体の環境担当部署（廃棄物とリサイクルを取り扱うところ）に廃棄方法を問い合わせ、ご確認いただくことになります。

一般廃棄物として廃棄できると確認できた場合は患者さまがご自宅で廃棄し、できない場合は医療機関に持ち込み、医療機関で廃棄することになります。一般廃棄物として廃棄できるかどうか分からない、確認できない場合は、医療機関にお持ち込みください。

院外薬局でカートリッジパックが処方される場合であっても、院外薬局では使用済みカートリッジパックは回収していませんので、患者さま自身で廃棄できない場合は、医療機関にお持ち込みください。

ご不明な点は、医師もしくは看護師にお問い合わせください。

※実際のカートリッジパックのシールとは異なります。

使用上の注意